

74 ^{みるくじいたび} 弥勒寺板碑
 75 ^{いおうじいたび} 医王寺板碑



弥勒寺板碑



医王寺板碑

指 定 市有形文化財 昭和54年 3 月31日
 所在地 臼 田
 所有者 弥勒寺・医王寺



板碑は卒塔婆の一種であり、板状の石材で造られた塔婆のことで、板石塔婆・板仏・平仏とも言われている。

板状の頂部を三角形に作り、その下に2本の溝状の線を、中央に仏像を表す梵字・名号など、下方や傍らに造立年号・偈文（仏の徳や教えをたたえた韻文）・造立者名などを刻み、下部は地下にさす基部からなっている。

鎌倉時代に始まり、当初は在地領主層による追善供養が主であったが、室町時代には逆修供養（生前供養）が多くなり、やがて農民層にも広がったと言われている。

弥勒寺のものは、長さ72cm、幅34cm、厚さ3.5cmである。中央に蓮弁上の阿弥陀三尊、その下に光明真言が、梵字で刻まれている。年紀は、暦応（1338～1341）までは判読できるが、それ以下は欠損して年数は不明である。

また医王寺のものは、長さ74cm、幅30cm、厚さ2.5cmである。上部と下端は欠損しているが、蓮弁上に梵字の阿弥陀三尊が刻まれ、その下に、造立の年紀「文和二年癸巳二月吉日」の刻名が残っている。文和2年は、1353年に当たる。

旧南佐久郡下では多数の板碑が発見され、板碑地区と言われている。これは、使用する石材が秩父青石と言われる緑泥片岩で、原産地秩父に近く、入手し易かったこと、またこの地域の仏教信仰の深さを示すものと言える。伝承と調査によれば郡下のものの多くは、古寺の跡から発見されている。